光触媒研究会

１．はじめに

本研究会は，「エレクトロキャタリシス研究会（1988 年発足）」とその後継の「電子または光子がかかわる触媒研究会（1994 年発足）」を引き継ぐ形で 2004 年に現在の「光触媒研究会」となった長い歴史をもつ．また，本研究会主催の「光がかかわる触媒化学シンポジウム」も歴史が長く「光がかかわる触媒化学の小討論会（触媒学会主催，1979-81 年）」として始まり，第 1~3 回「太陽光エネルギー変換にかかわる触媒化学シンポジウム（理研，1982-84 年）」を経て 1985 年から現在の名称となった．そんな本研究会を活動の場とする研究者の当該分野への貢献は極めて大きく，さらに近年の世界状況を反映して益々大きく発展に貢献すると期待される．現在，光触媒・光電極触媒による水分解をはじめとする諸反応系において，様々な研究が活発に行われている．

２．今年度の活動内容と展望

今年度の「第 44 回光がかかわる触媒化学シンポジウム」は 6 月 13 日と 14 日の 2 日間かけて，東北大学片平さくらホールで現地開催された．殷 シュウ先生（東北大）による特別講演「ソルバサーマルプロセスによるナノ材料合成及び光応答機能の高度化」と，総合講演（6 件），一般講演（9 件），ポスター発表（26 件）を行った．参加者数は 73 名（内オンライン参加者 11 名），協賛 7 社（機関）であった．ポスターセッションでは，オンラインと現地発表が併用され，現地発表に先立ってウェブ公開されたポスターに対してチャット形式（文字情報）で質疑応答がなされた．現地では例年どおり口頭での 2 分のプレビュー発表が行われた．今回は従来の学生を対象としたポスター発表賞に加え，口頭発表に対しても優秀発表賞を設定した．厳正な審査の結果，2 名に優秀講演賞，1 名に最優秀ポスター賞，また 4 名に優秀ポスター賞が授与された．

また例年どおり触媒討論会において「光触媒セッション」として参加した．春季（第 135 回，3 月）はポスター発表（対面形式），秋季（第 136 回，9 月）は口頭発表（対面形式）とポスター発表（対面形式）が行われた．本セッションにおける発表件数は，春季の第 135 回ではポスター39 件，秋季の第 136 回では発表件数は口頭 49 件（うち A2 講演は 3 件），ポスター33 件であった．秋季の第 136 回では特別講演として工藤 昭彦先生（東理大）に「人工光合成を目指した粉末光触媒の開発」を，依頼講演として野澤 俊介先生（高エネ研）に「放射光・XFEL における時間分解 X 線測定を用いた光触媒反応のダイナミクス研究」を，それぞれご講演いただいた．すべての講演で大変活発な議論がなされた．

３．世話人代表

加藤 英樹
〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1　東北大学多元物質科学研究所
E-mail: hideki.kato.e2@tohoku.ac.jp　光触媒研究会 HP: https://catsj.jp/photocatalysis